

## 松江支店は開設一〇〇周年を迎えました

▼松江支店は、三月一日に開設一〇〇周年を迎えました。

▼大正七年（一九一八）三月に、日本銀行の支店としては一四番目、中国・四国地方では広島支店に次ぐ二番目の支店として開設されました。開設当時は、約四万人の松江市民がこぞってちようちんや国旗を掲げてお祝いしてくれたそうです。

▼初代、二代目（現カラコロ工房）の店舗はいずれも、京橋川沿いの殿町に建てられました。二代目の建物は、山陰で初めて



布野委員講演の様相

エレベーターが設置された本格的なモダン建築として話題を呼びました。三代目に当たる現店舗は、昭和五十六年（一九八一）四月に母衣町に移転し、四〇年弱が経過しました。

▼一〇〇周年を記念して、二月二十一日には、島根県出身の布野幸利審議委員による「山陰の過去・現在・未来」をテーマとした講演会を開催しました。

▼松江支店は今後も、中央銀行としての日々の業務をしっかりと行い、地元で愛される支店でありたいと考えています。

## 名古屋市女性活躍推進企業に認定されました

▼日本銀行は、一月二十九日、名古屋市から「女性の活躍推進企業」として認定を受けました。

▼日本銀行はこれまでも、仕事と子育ての両立支援など女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が評価され、厚生労働省より、次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」認定（平



名古屋市女性の活躍推進企業認定マーク

成二十二年、平成二十六年）や女性活躍推進法に基づく「えるぼし」第三段階（最高ランク）の認定（平成二十九年）を受けています。

▼今回の名古屋市による「女性の活躍推進企業」の認定も、こうした取り組みが評価されたことによるものです。

▼日本銀行は、今後とも女性を含む多様な職員すべてが能力を十分に発揮できる環境づくりに取り組んでまいります。

## 貨幣博物館のホームページをリニューアルしました

▼貨幣博物館ではホームページを一月二十六日にリニューアル

しました。

▼これまでは、パソコン用サイトとスマートフォン用サイトを別々に作成しており、後者のページでは、開館日などの基本情報のみを掲載していましたが、今回のリニューアルによりすべてのページがスマートフォンやタブレットなどでも快適にご覧いただけるようになりました。

▼トップページをご覧いただくと、貨幣博物館所蔵の資料や展示室風景などの写真とともに、その日の開館・閉館時間などが一目でご確認いただけます。

▼ご来館を検討・計画されている方は、より分かりやすくなった開館カレンダーや常設展示情報などをご覧ください。

▼企画展等の開催情報もホームページにて随時ご案内しております。現在、テーマ展「春爛漫！桜咲く錦絵 ―日本橋・江戸桜通りへようこそ― 2018」を開催中です（四月十五日まで）。またこれまでの企画展の図録もホームページでご覧いた

パソコン・タブレット画面のトップページ



スマートフォン画面のトップページ



所蔵の錦絵や古文書などをご紹介します。クリックすると拡大画像をご覧いただけます。

「お金の歴史」ページ



「錦絵・絵画資料」ページ



だくことができま  
す。  
▼その他にも、「お金の歴史」や所蔵資料の目録に加え、新しくなった常設展示の図録や、来館にあたってご利用いただける学習シートを掲載するなど、コンテンツの拡充を図っています。  
▼今後もより快適にホームページをお使いいただけるよう最新の情報を随時掲載するとともに、コンテンツの充実・利便性向上のための改善を図ってまいります。

してご来館をお待ちしております。  
<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>  
※最新の情報はホームページをご覧ください。  
【休館日】月曜日（祝休日は開館）、年末年始（十二月二十九日～一月四日）  
【開館時間】午前九時半～午後四時半（入館は午後四時まで）  
【入館料】無料  
【所在地】東京都中央区日本橋本石町一丁目（日本銀行分館内）  
【お問い合わせ先】  
〇三―三三―七三〇三七  
〇三―三三―七三〇三七  
「第一三回日銀グランプリ」  
「キャンパスからの提言」  
の決勝大会開催  
二〇一七年十一月二十三日（祝）  
▼大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第一三回日銀グランプリ」キャン



## 編集後記

■昨年末頃から、日本証券業協会より頂戴したSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) のバッジを背広の胸元につけています。右のようなドーナツ型に17色が配色され、周囲の関心を引きつける美しいバッジがありますが、お会いする方々からは「何のバッジですか?」と質問されることが多いのが実情です。今回のインタビューでは、ノーベル平和賞を受賞した「IPCC」に日本代表の科学者として参画された鬼頭昭雄・理学博士にご登場いただき、地球温暖化の実像と異常気象との関係を教えていただきました。地球温暖化については、何となく理解しているつもりでいましたが、2100年にかけての地球における二酸化炭素の濃度および気温の上昇は、その水準および変化のスピードともにかつて人類が経験したことのないものになるとい、改めてそのインパクトの大きさに愕然としました。国連が主導するSDGsの美しいバッジを胸元につけながら、お会いする方々の質問に答え続けることも、自分にできる小さな貢献の一つと感じています。(鶴海)



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。  
([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2018年春号  
編集・発行人 鶴海誠一  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載



決勝進出5チームと審査員の皆さん (撮影:野瀬勝一)

「パスからの提言」に、今回は全国各地の三九大学から一二編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームにより決勝大会が開催されました。

▼決勝大会では、小林いずみ氏(経済同友会副代表幹事)、国谷裕子氏(キャスター、東京藝術大学理事)の他、岩田規久男日銀副総裁(当時)(審査員長)、櫻井眞・政井貴子両政策委員会審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

「最優秀賞」には、摂南大学経済学部チームの「健康通貨『WReC(レック)』」地域の魅力も「一歩」から」が選ばれました。

この他、優秀賞に日本大学経済学部チーム・一橋大学商学部チーム、敢闘賞に東京経済大学経済学部チーム・常磐大学国際学部チームが選出されました。

▼審査員からは、「統計データに加え、実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自身の抱いた問題を解決して

り、具体的で実現可能性を感じさせるものだった」との総評がありました。

▼日銀グランプリについては、日銀ホームページに専用コーナーを設け、決勝参加チームの作品全文と審査員講評および奨励賞論文の要旨を紹介しています。また、同コーナーやYouTubeでは決勝大会の様子を収録した動画も配信しています。ぜひご覧ください。

